

の計測. 第41回日本心臓血管外科学会学術総会. 浦安, 2月.

#### IV. 著 書

- 1) 坂本吉正, 岡本靖久, 近藤一郎, 安藤理香. 心臓手術の実際 外科医が語る術式, 麻酔科医が語る心臓麻酔, 臨床工学技士が語る体外循環法(第5回) 僧帽弁形成術と体外循環法 東京慈恵会医科大学附属病院. Clinical Engineering (21巻9号). 東京: 学研メデイカル秀潤社, 2010. p.948-57.
- 2) 田中圭他. INARS コースガイド. 東京: シェパード, 2010.

### 産婦人科学講座

教授: 田中 忠夫	生殖免疫学・出生前診断学
教授: 落合 和徳	婦人科腫瘍学, 腫瘍内分泌学, 中老年女性医学, 産婦人科手術
教授: 落合 和彦	周産期の生理と病理, 婦人科細胞診, 更年期医学, スポーツ医学
教授: 佐々木 寛	婦人科腫瘍学, 細胞診断学, 内視鏡手術, 放射線生物学
教授: 神谷 直樹	生殖内分泌学(骨代謝)
教授: 恩田 威一 <small>(総合健診・予防医学センター)</small>	産科における栄養と代謝, 出生前診断学, 周産期医学
准教授: 磯西 成治	婦人科腫瘍学
准教授: 新美 茂樹	婦人科腫瘍学
准教授: 岡本 愛光	婦人科腫瘍学, 分子産婦人科学
准教授: 大浦 訓章	周産期医学
准教授: 山田 恭輔	婦人科腫瘍学
准教授: 高野 浩邦	婦人科腫瘍学
講師: 高倉 聡	婦人科腫瘍学

### 教育・研究概要

#### I. 婦人科腫瘍学

1. 漿液性進行性卵巣がんにおける細胞周期関連遺伝子の検討～Cyclin D1は予後のバイオマーカーになりうる～

われわれは漿液性卵巣がん検体を対象に包括的 SNP アレイ解析によって Cyclin E の増幅が化学療法の耐性に関与していることを見だし報告した。今回われわれは漿液性進行性卵巣がんを対象を絞り、細胞周期関連分子の発現変化と臨床病理病態との関連を検討した。cyclin D1, pRb, p16, p53, p27<sup>Kip1</sup>, p21<sup>Waf1/Cip1</sup>, cyclin E の発現を免疫組織学的に解析し, PFS, OS ならびに化学療法の感受性との相関性を検討した。多変量解析の結果, cyclin D1 の発現増強 (p=0.0019), p27<sup>Kip1</sup> の発現の低下 (p=0.042) と残存腫瘍径 (p=0.0092) が OS の予後を規定する独立因子であった。さらに cyclin D1 の発現増強 (p=0.011) と残存腫瘍径 (p=0.0066) が初回化学療法の感受性と有意な相関を示した。以上より漿液性進行性卵巣がんにおいて Cyclin D1 は予後のバイオマーカーならびに分子治療の標的になりうることが示唆された。

## 2. 上皮性卵巣癌における免疫関連遺伝子の発現解析

腫瘍局所の免疫機構は癌の発生・進展に大きく関わる事が知られており、卵巣癌においても各種サイトカイン遺伝子の発現異常と発癌・予後との関連が報告されている。上皮性卵巣癌における免疫関連遺伝子発現を網羅的に解析し、腫瘍局所免疫と臨床病理学的因子との関与を明らかにすることを目的として研究遂行中である。

## 3. コピー数解析による卵巣がんに関与する遺伝子座と新たな相関関係

われわれは398の卵巣がん手術検体を対象に4種の異なるSNPアレイplatformを用いたコピー数変化のデータを得た。その結果、増幅程度の大きい領域やホモ欠失を示す領域が選択され、比較的報告の少ない1p34や20q11の増幅が浮き彫りになった。予後との関連を解析すると19、20qの増幅、Xの欠失と17qの欠失が有意な相関が認められた。

## 4. 卵巣明細胞がんにおけるIL6-STAT3-HIFシグナルと血管新生抑制剤sunitinibの感受性の検討

卵巣明細胞がんは比較的頻度が低く、プラチナ耐性を示す腫瘍である。発現変化とコピー数変化より卵巣明細胞がんの新しい治療ターゲットを検索した。発現プロファイルとコピー数変化を検索し、免疫組織学的に蛋白レベルでの確認を行った。その結果、IL6-STAT3-HIFパスウェイの発現がhigh-gradeの漿液性腺がんに比較して増強していた。またPTHLHの発現や血清IL6の発現増強が認められ、高カルシウム血症や血栓症の原因になる可能性が示唆された。チロシンキナーゼ受容体の増幅も種々認め、中でもMETが新しい治療ターゲットの候補であった。その結果、腎明細胞腺がんに効果を示すsunitinibが卵巣明細胞がんの新しい治療の候補になることが示された。

## 5. 卵巣癌の薬剤感受性とMitochondria (MT) 微細形態

卵巣癌細胞のMTの微細形態が薬剤感受性を反映することを報告してきた。今回は卵巣癌症例40例を対象とし、MT微細形態と化学療法の奏功を比較検討した。MT微細形態をscore化したMT scoreは化学療法奏功例で5.13、抵抗例で11.41であり、ROC解析では両者のcut off値は10ポイントであった。MT低値群では高値群に比べProgression free survivalの有意延長を認めた。

## 6. 卵巣明細胞腺癌pT<sub>1</sub>期における不整巨核と予後の検討

卵巣明細胞腺癌の予後因子として、病理組織の形態上の不整巨核の有無が独立した因子かについて検討した。卵巣明細胞腺癌(OCCC)pT<sub>1</sub>期の術後の78症例を対象とし、後方視的に検討した。巨核は主たる核の大きさの直径が2倍以上でかつ核形不整をもって10%以上存在するIGNC陽性群と残りのIGNC陰性群の2群分類した。不整巨核を有するOCCC IGNC陽性群は優位に予後不良であり、(P=0.007)多変量解析で独立した予後因子であった。

## II. 周産期母子医学

### 1. 抗リン脂質抗体からみた不妊症と不育症の相同性

不妊症例は流産となる確率が一般より高いことが知られており、着床不全と自己抗体の関連性も議論されている。不妊症例の抗リン脂質抗体(APA)陽性率が不育症例と同等に高く、また正常妊娠症例より有意に高いことはAPAの存在が不妊原因としての着床不全などの関与していることを示唆している。APA検査は不妊スクリーニングとしての意義があり、APA陽性不妊症例では抗凝固療法を検討する必要があると考えられる。

### 2. 抗リン脂質抗体の胎児・胎盤発育への関与

抗リン脂質抗体は胎盤機能不全を引き起こし子宮内胎児発育不全(FGR)の原因になるといわれている。しかし、数ある抗リン脂質抗体のうちどの抗体が主に作用しているかは明らかになっておらず、また、次回妊娠時のFGR予防法も確立されていない。そこで、当院症例において、抗リン脂質抗体とFGRの関連を調べ、さらに、抗リン脂質抗体陽性でFGR児出産既往女性について、次回妊娠時の抗凝固療法の治療効果を検討する。

## III. 生殖内分泌学

### 1. 40歳以上高度生殖補助医療(ART)患者に対する治療終結についての検討

妊娠に至らないで終結点の見えない治療を続ける高齢不妊患者への対応が問題となってきている。不妊患者へのカウンセリングの重要性が求められているものの、不妊治療の限界や終結点についてはほとんど議論されていない。我々は40歳以上ART患者の治療成績について検討を行い、さらに不妊患者の考える治療終結についてのアンケート調査を行った。治療終結の指標の確立とカウンセリングの両面からこの問題にアプローチしている。

## 〔点検・評価〕

産婦人科学の3本柱である1) 婦人科腫瘍学, 2) 周産期母子医学, そして3) 生殖内分泌学の分野を主な研究対象としている。研究概要にあるように、教室の研究メインテーマである腫瘍学に関するものが幅広いが、周産期医学や生殖医学に関する分野での研究も順調に進展してきている。

個々の内容をみると、腫瘍学の分野では卵巣癌を対象とした研究が幅広く行われている。包括的 SNP アレイ解析, CGH 解析あるいは microRNA 発現解析による発癌機構の検討, 化学療法耐性遺伝子の検討, 癌幹細胞マーカーの探索が引き続き行われており, 加えて免疫関連因子との関連が精力的に研究されている。周産期医学では, 引き続き抗リン脂質抗体が関わる病態を幅広く解析しており, 依然としてこの分野では本邦のトップレベルの研究を行っている。生殖医学の分野では, 着床機構の解明に取り組んでおり, CD147, MMP2 あるいは卵巣予備能の指標となる AMH の研究にも着手し, 高齢者での治療終結に関する研究と結びつけている。

このところ, 国外学会でも多くの発表がなされており, とくに大学院生やレジデントの参加も目立っており, これからの進展が楽しみである。

多忙な臨床の中, 国内外で評価される研究を遂行している教室員の努力には敬意を表すが, さらに積極的な論文執筆への姿勢を求めたい。

## 研究業績

## I. 原著論文

- 1) Terauchi F, Okamoto A, Wada Y, Hasegawa E, Sasaki T, Akutagawa O, Sagawa Y, Nishi H, Isaka K. Incidental events of diaphragmatic surgery in 82 patients with advanced ovarian, primary peritoneal and fallopian tubal cancer. *Oncol Lett* 2010; 1(5): 861-4.
- 2) Gorringer KL<sup>1)2)</sup>, George J<sup>1)2)</sup>, Anglesio MS<sup>1)</sup>, Ramakrishna M<sup>1)2)</sup>, Etemadmoghadam D<sup>1)</sup>, Cowin P<sup>1)</sup>, Sridhar A<sup>1)</sup>, Williams LH (Royal Children's Hospital), Boyle SE<sup>1)</sup>, Yanaihara N, Okamoto A, Urashima M, Smyth GK (Walter and Elica Hall Institute of Medical Research), Campbell IG<sup>1)2)</sup>, Bowtell DD<sup>1)</sup> (<sup>1</sup>Peter MacCallum Cancer Centre, <sup>2</sup>University of Melbourne); Australian Ovarian Cancer Study. Copy number analysis identifies novel interactions between genomic loci in ovarian cancer. *PLoS ONE* 2010; 5(9): e11408.
- 3) Anglesio MS, Carey MS, Kobel M, Mackay H, Huntsman DG. Clear cell carcinoma of the ovary: A

- report from the first Ovarian Clear Cell Symposium. *Gynecol Oncol* 2011; 121(2): 407-15.
- 4) Anglesio MS, George J, Kulbe H, Friedlander ML, Rischin D, Lemech C, Power J, Coward J, Cowin PA, House CM, Chakravarty P, Gorringer KL, Campbell IG, Group AO, Okamoto A, Birrer MJ, Huntsman DG, Defazio A, Kalloger SE, Balkwill FR, Gilks B, Bowtell DD. IL6-STAT3-HIF signalling and therapeutic response to the angiogenesis inhibitor, sunitinib, in ovarian clear cell cancer. *Clin Cancer Res* 2011; 17(8): 2538-48. Epub 2011 Feb 22.
  - 5) Hashimoto T, Yanaihara N, Okamoto A, Nikaido T, Saito M, Takakura S, Yasuda M, Sasaki H, Ochiai K, Tanaka T. Cyclin D1 predicts the prognosis of advanced serous ovarian cancer. *Exp Ther Med* 2011; 2(2): 213-9.
  - 6) Matsumoto R, Isonishi S, Ochiai K, Hamada T, Ki-yokawa T, Tachibana T, Ishikawa H. Prognostic significance of mitochondrial scoring system in ovarian cancer. *Exp Ther Med* 2010; 1(5): 783-8.
  - 7) 矢内原臨, 岡本愛光, 柳田 聡, 落合和徳, 田中忠夫. 【遺伝子診療学 (第2版) 遺伝子診断の進歩とゲノム治療の展望】 遺伝子診断 (Genetic Diagnosis) がんのゲノム解析と診療への応用 婦人科腫瘍. *日臨* 2010; 68 (増刊8 遺伝子診療学): 489-93.
  - 8) Nakajima K, Isonishi S, Saito M, Tachibana T, Ishikawa H. Characterization of two independent, exposure-time dependent paclitaxel-resistant human ovarian carcinoma cell lines. *Hum Cell* 2010; 23(4): 156-63.
  - 9) 大浦訓章, 佐藤陽一, 武隈桂子, 加藤淳子, 鈴木美智子, 種元智洋, 梅原永能, 川口里恵, 和田誠司, 落合和徳, 田中忠夫. 【高齢妊娠の諸問題】 妊娠合併症 高帝王切開率. *産と婦* 2010; 77(2): 185-93.
  - 10) 鈴木二郎, 種元智洋, 嘉屋隆介, 鈴木美智子, 加藤淳子, 梅原永能, 川口里恵, 和田誠司, 大浦訓章, 恩田威一, 田中忠夫. 弛緩出血のため帝王切開後に膈上部切断術を行った1例. *日産婦東京会誌* 2010; 59(2): 249-53.
  - 11) 杉本公平, 泊 亜希, 針谷則子, 添田明美, 斎藤幸代, 高橋絵理, 黒田 浩, 川口里恵, 拝野貴之, 橋本朋子, 林 博, 矢内原臨, 大浦訓章, 田中忠夫. 治療終結に関する不妊患者の意識調査. *日受精着床会誌* 2010; 27(1): 313-7.
  - 12) 佐々木寛. 婦人科がん術後下肢リンパ浮腫を予防する鍵は後腹膜開放と大腿ソケイ上リンパ節温存. *リンパ学* 2010; 33(2): 131-2.
  - 13) 飯田泰志, 佐々木寛. 【婦人科がんに関する最近の話題】 リンパ浮腫に関する新たな検討と試み. *産と婦*

- 2010 ; 77(9) : 1083-8.
- 14) 佐々木寛, 飯田泰志. 【産婦人科手術で注目される技術と機材の有用性】 下肢リンパ浮腫予防手術. 産婦人科の実際 2010 ; 59(8) : 1223-8.
- 15) 田中邦治, 齋藤元章, 川畑絢子, 佐藤佳世, 松井仁志, 北西あすか, 佐藤陽一, 横須賀治子, 高橋一彰, 山本瑠伊, 土橋麻美子, 上田 和, 小林重光, 磯西成治. 産後腔壁血腫および後腹膜血腫の1例. 日産婦東京会誌 2010 ; 59(2) : 279-83.
- 16) 松井仁志, 齋藤元章, 田沼有希子, 高橋一彰, 佐藤陽一, 山本瑠伊, 土橋麻美子, 上田 和, 磯西成治. 卵巣明細胞腺癌合併妊娠の1例. 日産婦東京会誌 2010 ; 59(3) : 389-92.
- 17) 石井晶子, 杉浦健太郎, 關 寿之, 森本恵爾, 竹中将貴, 高尾美穂, 松本隆万, 磯西成治, 落合和彦. 穿通胎盤の一例. 日産婦東京会誌 2010 ; 59(2) : 201-8.
- 18) 林 千景, 鈴木美智子, 佐々木香苗, 關 寿之, 武隈桂子, 竹中将貴, 松本隆万, 新美茂樹, 落合和彦. 帝王切開後に脳梗塞を発症した一例. 日産婦東京会誌 2010 ; 59(4) : 546-9.
- 19) 森本恵爾, 杉浦健太郎, 石井晶子, 關 寿之, 竹中将貴, 高尾美穂, 松本隆万, 磯西成治, 落合和彦. 卵巣嚢腫として経過観察された腎盂拡張合併妊娠の一例. 日産婦東京会誌 2010 ; 59(1) : 83-6.
- 20) 落合和彦, 中井章人. 妊娠中のスポーツ活動. 日臨スポーツ医学会誌 2010 ; 18(2) : 202.
- 21) 梶原一紘, 小竹 譲, 林 千景, 野澤絵理, 山口乃里子, 嘉屋隆介, 高橋 健, 森本恵爾, 黒田 浩, 拝野貴之, 石塚康夫, 茂木 真, 高野浩邦, 佐々木寛. 妊娠初期の超音波検査にて nuchal translucency 肥厚, 鼻骨欠損, 静脈管の逆流を認めた 21 トリソミーの 2 症例. 日産婦千葉会誌 2011 ; 4(2) : 80.
- 22) 高橋 健, 黒田 浩, 山口乃里子, 野澤絵理, 林千景, 梶原一紘, 嘉屋隆介, 森本恵爾, 拝野貴之, 石塚康夫, 小竹 譲, 茂木 真, 高野浩邦, 佐々木寛. 術後に傍大動脈リンパ嚢胞と大量リンパ腹水を来した卵巣癌の1例. 日産婦千葉会誌 2011 ; 4(2) : 82.
- 23) 種元智洋, 佐々木香苗, 林 千景, 宇田川治彦, 仲田由紀, 加藤淳子, 田中邦治, 川口里恵, 鈴木啓太郎, 和田誠司, 久保隆彦, 左合治彦, 田中忠夫. FGR (IUGR) に関する最新情報 FGR (IUGR) と娩出時期. Fetal Neonatal Med 2010 ; 2(2) : 78-81.
- 24) 關 寿之, 竹中将貴, 野澤絵理, 佐藤佳世, 武隈桂子, 鈴木美智子, 松本隆万, 新美茂樹, 落合和彦, 大橋伸介, 田中忠夫. 胎児期に疑われた総胆管嚢腫の1例. 日産婦東京会誌 2010 ; 59(3) : 328-33.
- 25) 山田恭輔, 岡本愛光, 矢内原臨, 田部 宏, 高倉 聡, 松本隆万, 上田 和, 安西範晃, 高野浩邦, 落合和彦, 佐々木寛, 落合和徳, 田中忠夫. 卵巣癌治療における新たな展開再発卵巣癌に対する腫瘍減量手術. 日婦腫瘍会誌 2010 ; 28(3) : 396-402.
- 26) 落合和徳. 【臨床試験グループの現状と問題点】 JGOG (婦人科悪性腫瘍化学療法研究機構). 腫瘍内科 2010 ; 6(4) : 352-9.
- 27) 平田幸広, 中島邦宣, 北西あすか, 国東志郎, 杉山信依, 矢内原臨, 田部 宏, 高倉 聡, 山田恭輔, 岡本愛光, 田中忠夫. 子宮全摘術術後, 膈から小腸脱出をきたした1例. 日産婦東京会誌 2010 ; 59(3) : 350-3.
- 28) 仲田由紀, 大浦訓章, 井上桃子, 平田幸広, 丸田剛徳, 加藤淳子, 田中邦治, 梅原永能, 川口里恵, 種元智洋, 鈴木啓太郎, 和田誠司, 恩田威一, 田中忠夫. 妊娠 34 週に発症しプロモクリプチン療法が奏効した産褥心筋症の1例. 日産婦東京会誌 2010 ; 60(1) : 72-5.

## II. 総 説

- 1) 杉本公平, 川口里恵, 高橋絵理, 安田 允, 田中忠夫. 【生殖医療とフローサイトメトリー】 不育症治療における同種免疫異常の検索と治療. Cytometry Res 2010 ; 20(2) : 13-9.
- 2) 梅原永能, 大浦訓章, 田中忠夫. 【産婦人科救急のすべて】 産科救急の診療 妊娠初期の腹痛・腹緊とその対応. 産婦治療 2010 ; 100 (増刊) : 591-7.
- 3) 磯西成治, 齋藤元章, 上田 和. 【卵巣癌化学療法】 卵巣癌初回術後化学療法. 日産婦会誌 2010 ; 62(6) : 1059-65.
- 4) 矢内原臨, 平田幸広, 岡本愛光, 落合和徳, 田中忠夫. 【婦人科がんの Molecular Biology】 細胞周期. 産と婦 2011 ; 78(1) : 54-8.
- 5) 山田恭輔, 安田 允. 【婦人科領域における癌の病態と治療】 卵巣腫瘍. 医と薬学 2011 ; 65(1) : 47-51.
- 6) 橋本朋子, 杉本公平, 田中忠夫. 【臨床医に有用な超音波 (エコー) 検査】 産婦人科超音波検査 婦人科. 臨と研 2010 ; 87(5) : 661-9.
- 7) 恩田威一, 田中邦治, 種元智洋, 川口里恵, 鈴木啓太郎, 和田誠司, 大浦訓章, 田中忠夫. 【外来診療マニュアル】 周産期 出生前胎児スクリーニング 母体血清マーカー検査. 産婦の実際 2010 ; 59(11) : 1630-5.
- 8) 大浦訓章, 宇田川治彦, 佐々木香苗, 林 千景, 加藤淳子, 種元智洋, 川口里恵, 鈴木啓太郎, 和田誠司, 恩田威一, 田中忠夫. 【分娩誘発 より安全に, より確実に】 子宮収縮薬の種類と特徴. 周産期医 2010 ; 40(9) : 1339-45.
- 9) 鈴木啓太郎, 和田誠司, 田中忠夫. 【妊産婦死亡予防に向けて まず行うべきこと】 前置癒着胎盤. 産婦の実際 2011 ; 60(1) : 75-80.

## Ⅲ. 学会発表

- 1) 岡本愛光, 矢内原臨, 斉藤美里, 浦島充佳, 落合和徳, 田中忠夫. ビタミンD受容体FokI C/C多型は卵巣癌の予後良好因子である. 第62回日本産科婦人科学会学術講演会. 東京, 4月.
- 2) 林 博, 岡本愛光, 高橋絵理, 橋本朋子, 柳田 聡, 杉本公平, 高倉 聡, 山田恭輔, 岡本茂久, 落合和徳, 田中忠夫. ホルモン療法既往子宮内膜症患者におけるジェノゲストの長期投与に関する検討. 第62回日本産科婦人科学会学術講演会. 東京, 4月.
- 3) 矢内原臨, 岡本愛光, 斉藤美里, 高倉 聡, 山田恭輔, 落合和徳, 田中忠夫. 上皮性卵巣癌における免疫関連遺伝子の発現解析. 第62回日本産科婦人科学会学術講演会. 東京, 4月.
- 4) 柳田 聡, 岡本愛光, 林 博, 杉本公平, 矢内原臨, 田部 宏, 鶴岡三知男, 新美茂樹, 岡本茂久, 落合和徳, 田中忠夫. 子宮出血合併子宮内膜症に対するジェノゲストの適応基準の検討. 第62回日本産科婦人科学会学術講演会. 東京, 4月.
- 5) 杉本公平, 武隈桂子, 仲田由紀, 加藤淳子, 高橋絵理, 斎藤幸代, 川口里恵, 拝野貴之, 橋本朋子, 林 博, 矢内原臨, 和田誠司, 大浦訓章, 田中忠夫. 抗ミューラー管ホルモン (AMH) はPCOSのクロミッド反応性の指標となりうるか. 第55回日本生殖医学会総会・学術講演会. 徳島, 11月.
- 6) 杉本公平, 加藤淳子, 斎藤幸代, 高橋絵理, 川口里恵, 橋本朋子, 拝野貴之, 林 博, 矢内原臨, 大浦訓章, 田中忠夫. 40歳以上不妊患者にとって抗ミューラー管ホルモン (AMH) は治療終結の指標となりうるか? 第62回日本産科婦人科学会学術講演会. 東京, 4月.
- 7) 上田 和, 山田恭輔, 矢内原臨, 斉藤美里, 岡本愛光, 田中忠夫. 子宮体癌におけるtenascin-Cの発現と臨床病理学的検討. 第62回日本産科婦人科学会学術講演会. 東京, 4月.
- 8) 坂本 優, 岡本三四郎, 三宅清彦, 小屋松安子, 秋谷 司, 中野 真, 室谷哲弥, 天神美夫, 落合和徳, 田中忠夫. 子宮頸部初期病変に対する光線力学療法 (PDT) の妊娠性温存能. 第62回日本産科婦人科学会学術講演会. 東京, 4月.
- 9) 高倉 聡, 斎藤元章, 上田 和, 矢内原臨, 田部 宏, 山田恭輔, 岡本愛光, 佐々木寛, 落合和徳, 田中忠夫. 卵巣明細胞腺癌初回化学療法としてのシスプラチン・イリノテカン療法の長期治療成績. 第62回日本産科婦人科学会学術講演会. 東京, 4月.
- 10) 平田幸広, 中島邦宣, 北西あすか, 国東志郎, 杉山信衣, 矢内原臨, 田部 宏, 高倉 聡, 山田恭輔, 岡本愛光, 落合和徳, 田中忠夫. 子宮全摘出術後, 膈より小腸脱出をきたした1例. 第354回日本産科婦人科学会東京地方部会例会. 東京, 5月.
- 11) 北西あすか, 田部 宏, 仲田由紀, 国東志郎, 中島邦宣, 矢内原臨, 高倉 聡, 山田恭輔, 岡本愛光, 落合和徳, 田中忠夫. 当院における上皮性卵巣境界悪性腫瘍の後方視的検討. 第119回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会・学術集会. 東京, 6月.
- 12) 田部 宏, 北西あすか, 竹中将貴, 飯田泰志, 上田和, 高倉 聡, 山田恭輔, 岡本愛光, 新美茂樹, 磯西成治, 佐々木寛, 落合和彦, 落合和徳, 田中忠夫. 当大学付属4病院における卵巣上皮性境界悪性腫瘍の後方視的検討. 第48回日本婦人科腫瘍学会学術講演会. つくば, 7月.
- 13) 大野田晋, 中島邦宣, 北井里実, 野口幸子, 山口乃里子, 平田幸広, 佐藤佳世, 横須賀治子, 北西あすか, 国東志郎, 杉山信依, 矢内原臨, 田部 宏, 高倉 聡, 山田恭輔, 岡本愛光, 落合和徳, 田中忠夫. 子宮内膜間質肉腫の2例. JSAWI 2011 (The 11th Annual Symposium Japanese Society for the Advancement of Women's Imaging). 淡路, 9月.
- 14) 田部 宏, 斎藤元章, 松本隆万, 黒田 浩, 高倉 聡, 山田恭輔, 岡本愛光, 磯西成治, 佐々木寛, 落合和彦, 落合和徳, 田中忠夫. 上皮性卵巣癌 T1期 (TNM分類: 卵巣内限局発育) 症例の後方視的検討. 第48回日本癌治療学会学術集会. 京都, 10月.
- 15) Sakamoto M, Okamoto S, Miyake K, Koyamatsu Y, Akiya T, Nakano M, Muroya T, Tenjin Y, Ochiai K, Tanaka T. Photodynamic therapy for precancer and early stage cancer of the uterine cervix with fertility preservation. 13th Biennial Meeting of the International Gynecologic Cancer Society (IGCS 2010). Prague, Oct.
- 16) 高橋絵理, 川口里恵, 加藤淳子, 斎藤幸代, 橋本朋子, 林 博, 矢内原臨, 杉本公平, 秋山芳晃, 田中忠夫. 抗リン脂質抗体からみた不妊症と不育症の相同性. 第62回日本産科婦人科学会学術講演会. 東京, 4月.
- 17) Hiura M, Udagawa Y, Sugiyama T, Hatae M, Ochiai K, JGOG-Japanese Gynecologic Oncology Group. Evaluation of the need for red blood cell transfusions in anemic patients with gynecologic cancer receiving. 13th Biennial Meeting of the International Gynecologic Cancer Society (IGCS 2010). Prague, Oct.
- 18) Yanaiharu N, Okamoto A, Saito M, Ochiai K, Tanaka T. Cytokine gene expression signature in ovarian cancer. 13th Biennial Meeting of the International Gynecologic Cancer Society (IGCS 2010). Prague, Oct.
- 19) Okamoto A, Yanaiharu N, Saito M, Hirata Y, Kitaniishi A, Tanabe H, Takakura S, Yamada K, Tanaka T, Ochiai K. Vitamin D receptor polymorphisms and prognosis of patients with epithelial ovarian cancer.

13th Biennial Meeting of the International Gynecologic Cancer Society (IGCS 2010). Prague, Oct.

- 20) 佐藤佳世, 田部 宏, 小池裕人, 新崎勤子, 高倉 聡, 山田恭輔, 岡本愛光, 池上雅博, 落合和徳, 田中忠夫. 術前診断が可能であった卵管明細胞腺癌の一例. 第49回日本臨床細胞学会秋期大会. 神戸, 11月.

#### IV. 著 書

- 1) 落合和徳, 中島邦宣. V. 婦人科がん・泌尿生殖器がん A. 婦人科がん 3. 進行卵巣がんでは術前化学療法は推奨されるか? 西條長宏監修. EBM がん化学療法・分子標的治療法 2011-2012. 東京: 中外医学社, 2010. p.370-2.
- 2) 倉骨 彰, Kurahone TT, Kurahone CA 著, 横田淳, 谷憲三朗, 岡本愛光, 加藤元彦, 瀬戸浩行監修. 怪我と病気の英語力: 病院・医院で役に立つ文例 2800. 東京: 日本経済新聞出版社, 2010.
- 3) 磯西成治他, 日本婦人科腫瘍学会編. 卵巣がん治療ガイドライン 2010年版. 第3版. 東京: 金原出版, 2010.
- 4) 岡本愛光他, 日本婦人科腫瘍学会編. 患者さんとご家族のための子宮頸がん・子宮体がん・卵巣がん治療ガイドラインの解説. 東京: 金原出版, 2010.
- 5) 山田恭輔. 婦人科腫瘍. UICC 日本委員会 TNM 委員会訳 TNM 悪性腫瘍の分類: 日本語版. 第7版. 東京: 金原出版, 2010. p.182-223.

#### V. その他

- 1) 落合和徳. 漿液性進行卵巣癌における細胞周期調節蛋白の発現と臨床病理学的検討. 厚生労働科学研究費補助金(がん臨床研究事業)分担研究報告書 2010; 39-42.
- 2) 佐々木寛, 林 博, 岡本愛光, 杉本公平, 柳田 聡, 橋本朋子, 高橋絵理, 高倉 聡, 山田恭輔, 落合和徳, 田中忠夫. ホルモン療法既往子宮内膜症患者におけるジェノゲストの長期投与に関する検討. 第363回四水会. 東京, 6月.
- 3) 落合和彦. 子宮頸がんの予防ワクチンについて. 第10回練馬小児科臨床症例研究会. 東京, 4月.
- 4) 落合和徳. インフルエンザの最新情報(II) ハイリスク患者の管理-妊婦. ドクターサロン 2010; 54(7): 53-6.
- 5) 野澤絵理, 和田誠司, 田沼有希子, 川畑絢子, 加藤淳子, 田中邦治, 種元智洋, 鈴木啓太郎, 大浦訓章, 落合和徳, 田中忠夫. 癒着胎盤症例における他科との連携. 第364回四水会. 東京, 11月.

## 泌尿器科学講座

教授: 颯川 晋	前立腺癌, 泌尿器悪性腫瘍, 腹腔鏡手術
教授: 小野寺昭一	尿路性器感染症
教授: 岸本 幸一	尿路感染, 老人泌尿器科学
准教授: 池本 庸	男性科学, 前立腺癌
准教授: 清田 浩	尿路感染症, 前立腺肥大症, エンドウロロジー
准教授: 浅野 晃司	尿路上皮腫瘍, 分子腫瘍学
准教授: 古田 希	副腎腫瘍, 尿路結石
准教授: 鈴木 康之	排尿障害, 女性泌尿器科
講師: 波多野孝史	腎細胞癌
講師: 三木 健太	前立腺癌

### 教育・研究概要

#### I. 泌尿器悪性腫瘍に関する研究

##### 1. 基礎的研究

- 1) プロテオーム解析による前立腺癌新規腫瘍マーカーの探索(車 英俊, 木村高弘, 鎌田裕子, 小出晴久, 山本順啓, 面野 寛, 都筑俊介)

プロテオーム解析法による新しい前立腺癌新規バイオマーカーを探索している。前立腺癌病理標本からレーザーマイクロダイセクションにより, 癌部(low GS, high GS, M1 症例), 正常部を切り出し, nano LC-MS/MS により網羅的プロテオーム解析を行い, 新規前立腺癌マーカー候補蛋白を発見した。これらの結果は第99回日本泌尿器科学会等で発表した。

- 2) 日本人由来新規前立腺癌細胞株(木村高弘)

当科にて日本人前立腺癌患者手術検体より樹立した新規前立腺癌細胞株 JDCaP のホルモン抵抗株を作成した。JDCaP 皮下移植マウスを去勢し, その後に発育した腫瘍を継代し安定系を作成した。現在ホルモン抵抗性獲得機序の解明をおこなっている。

- 3) 神経泌尿器科, 女性泌尿器科に関する基礎的研究(古田 昭)

- (1) 過活動膀胱と腹圧性尿失禁との関連に関する基礎的研究

妊娠や出産に伴う陰部神経の損傷により腹圧性尿失禁を生じることはよく知られているが, 本研究で陰部神経の部分損傷が過活動膀胱を同時に誘発することを実験的に証明した。これは, 女性の尿失禁のなかで混合性尿失禁(腹圧性尿失禁と切迫性尿失禁の両方を併発)が臨床的に最も多いことと一致する。